


## メディカル英語 No.7

## 医学英語のインフォームドコンセント文書を読む

## —— 同意書の構造と法的表現

 **今日のゴール：** インフォームドコンセント（IC）文書の固定構造と法的表現を理解し、「患者の権利・リスク・代替治療・同意撤回」に関する英語表現を習得する。医師としての説明義務・同意取得の倫理的根拠を英語で論述できるようになる。


 この授業の問い

1. IC 文書には何が必ず含まなければならないのか？
2. "You have the right to withdraw consent at any time" とはどのような意味か。
3. IC の法的根拠（自律尊重原則）を英語で説明するには？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 IC とは何か：倫理的・法的背景

インフォームドコンセント（Informed Consent）は「十分な説明に基づく同意」。医療倫理の4原則（自律尊重・善行・無危害・公正）のうち**自律尊重原則（Respect for Autonomy）**の実践形態。

 **歴史的背景：** 1947年ニュルンベルク綱領（ナチス人体実験への反省）→ 1964年ヘルシンキ宣言（研究倫理の国際基準）→ 1979年ベルモントレポート（3原則）→ 現代のIC制度へ。入試の倫理問題でも問われる重要な歴史的文脈。

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— インフォームドコンセント・法的表現の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

インフォームドコンセント・法的表現の問題では、*同意書の法的表現の根拠*の理解が答案の質を大きく左右します。

## ② インフォームドコンセント・法的表現で採点者が見ているポイント

「同意書のshall・hereby・hereinは法的効力を持つ表現」と機能を示した答案が採点者に「医療文書を理解している」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所